

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年6月1日発行（毎月一回発行）第701号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

文学は実学である 佐藤裕子

本・批評と紹介

柳父園近 著

日本のプロテスタンティズムの政治思想
本田逸夫

鈴木文治 著

インクルーシブ神学への道 関田寛雄

北村慈郎 著

食材としての説教 本田哲郎

W.ブルグマン 著／中村信博、矢田洋子 訳

現代聖書注解

サムエル記 上／下 宮井岳彦

東方敬信 著

地球共生社会の神学 増田 琴

佐藤全弘 著

新渡戸稲造と歩んだ道 柴崎由紀

沢 知恵 著

私のごすべるくろにくる 深田未来生

N.T.ライト 著／山口希生 訳

新約聖書と神の民 上巻 小林高德

ヨッヘン・クレッパー 著／富田恵美子・ドロテア、富田 裕 訳
森本二郎 写真

キリエ 川崎公平

梅津順一 著

その神の名は？ 近藤勝彦

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内

6 JUNE
2016





『信徒の友』2014～2015年度連載が早くも単行本化!

がん哲学外来で処方箋を

カフェと出会った24人

樋野興夫 編著



病気であっても、
病人ではない生き方へ

がん学と人間学を合わせ、対話によって医療現場と患者の間の「隙間」を埋める「がん哲学外来」。この外来に出会い、「言葉の処方箋」を得た24人が自身のがん体験を語る。

◆四六判 並製・160頁・1,620円

がん哲学外来で
処方箋を
カフェと出会った24人

樋野興夫 編著



本書の出版記念講演会
を開催します!

がん体験記を執筆された方3名
によるお話と、樋野興夫氏による
講演を行います。



詳細は
WEBで

日時

2016年6月9日(木)
18時30分～20時30分

会場

お茶の水クリスチャン・センター
8階チャペル
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル

主催/日本キリスト教団出版局、
OCCがん哲学外来お茶の水メディカル・カフェ

入場無料 申込不要 サイン会あり

説教黙想 アレティア

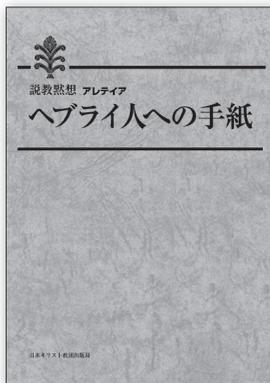
ヘブライ人への手紙

執筆
者

加藤常昭/徳善義和/橋谷英徳/古屋治雄/小副川幸孝
吉村和雄/楠原博行/高橋 誠/北尾一郎/石井佑二
高橋重幸/浅野直樹/飯田敏勝

季刊誌『説教黙想 アレティア』第84～86号に連載された
説教黙想の合本。教派を超えた定評ある執筆陣が、「ヘ
ブライ人への手紙」から聖書のみ言葉の真理を導き出す。

◆B5判 並製・206頁・3,564円





出会い・本・人

文学は実学である——佐藤裕子

「文学」研究を生業とする者が、常に悩まされるのが「文学」≡「Fiction（作り物・虚構）」という図式である。「文学」が「虚構」だからといって、現実社会で役に立たないことにはならない。なぜなら現実社会でのコミュニケーションも、その内実は相互の立場や役割などに応じて変化する「作り物・虚構」であるからだ。「文学」を研究することは、社会で役に立つのか」という問いは決して目新しいものではなく、今から約百年前にも悩む人物がいた。夏目漱石である。漱石は、東京帝国大学文科大学での講義録『文学論』の中で、「心理的に文学は如何なる必要あって、此世に生れ、発達し、頽廢するか」「社会的に文学は如何なる必要あって、存在し、隆盛」するかを究めようとした。そして「何故文学を学ぶのか」を明らかにしている。

では、「文学」の何が役に立つのかというと、それはそこに描かれている人間の社会的・言語的關係性を読み解くことにある。「文学」は様々な場面で人間がどのように振る舞い、考え、感じるか、高度なシミュレーションを行う。そして、文学の世界も、現実の世界も、場の雰囲気・状況・相手のしぐさや表情など、読み解くことのできる無数のテキストと繋がっている。その過程で

我々は感動・共感・知識のほかに、面白いものと自分に必要なものを選び取り、その先に「発信」（コミュニケーション）が生まれる。発信とは、自分が話をしている相手が既にどのような知識を持っていて、何に関心があるかを踏まえることで伝えるべき内容が定まる。これは、自分と相手が置かれていく状況・コンテンツ（文脈）を十分に理解していなければできないことである。このコンテキストを踏まえた表現力は、発話の状況を極めて高度に分析して初めて達成されるもので、文学の精緻な分析作業と共通している。つまり、現実社会における効果的なコミュニケーションにも、「文学」研究の根幹にある高度な分析力と想像力を必要とするということである。まさに「文学」が「実学」であることの所以である。漱石は自ら「文学」を研究し、「文学」を創作する「理論的根拠を『文学論』としてまとめている。

私にとって「文学は社会で役に立つのか」という問いに対して、「文学」を研究することの意味を再確認するための書が『文学論』である。「文学」こそ、漱石が自らの人生を賭けるに値するものとして選び取ったものだからである。

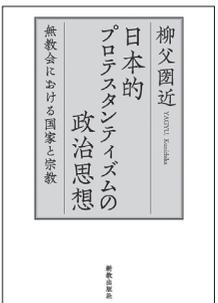
（さとう・ゆうこ）フェリス学院大学文学部日本語日本文学教授

思想史研究の真骨頂を發揮した労作

柳父園近著

日本のプロテスタンティズムの 政治思想

無教会における国家と宗教



柳父園近
日本の
プロテスタンティズムの
政治思想
無教会における国家と宗教

岩波書店

柳父園近

日本近代思想の重要な潮流を成す無教会キリスト教の特徴の一つは、信仰の純化をめざしつつもそれを私的內面性の枠内に閉じ込めなかったことにある。個人差こそあれ、無教会人達は、内村鑑三の墓碑銘が象徴する通り、日本の国民形成及び世界への貢献を追求したのである。本書はその追求、特に国家と宗教をめぐる思索を、内村とその門下の巨星といふべき社会学者である南原繁、矢内原忠雄、大塚久雄について考察している。六章から成る本書の第一章「内村鑑三」とつてのクロムウェル」は、クロムウェルやピューリタン革命への言及を時代順に追って内村の思想の展開を考察したユニークな仕事である。他章より原論文の発表時期が新しく分量も多く、おそらく著者の最近の到達点を表している。

内村は渡米後、アーマスト大学のシーリー学長の導きで贖罪信仰への回心とアガペー的な同胞愛のめざめを経験する一方で、同大入学の前後からエレミヤ記への熱中やモース教授の講義の聴講等を通して歴史への関心を深めた。その結果、歴史を文明の進歩＝自由の発達とみなし、その内で「日本の天職」を位置づける「哲学的」歴史観を奉じた。カーライルのクロムウェル

伝の感化により、だが根源的には先の回心に基ついて、不敬事

件で偶像崇拜を拒否して受難した内村の発言スタイルは、日清戦争の正当化への自己批判を経て、体制の「祭司的」な擁護・祝福から「預言者的」な批判へと転換した。そこでも当初、英帝国「膨脹」の先導者で西郷隆盛と重なる存在としてクロムウェルを讃えていたものの、彼を立憲政治ないし「共和国も及ばざるの自由」の定礎者とする評価を深めていった。そして、日露開戦以降に非戦論を徹底させさらに第一次大戦の勃発を経て、なお残存させていた先の歴史観と「旧来のエロスのナショナリズム」をついに棄却し、(人類の進歩ならぬ)神の終末論的な革命のみが「神の国」をもたらすとの(K・バルトの危機神学と相似た)再臨信仰に決定的に帰依した。そこでは、立憲主義の観点からのクロムウェル等の評価は維持しつつ、その愛敵・非暴力の不徹底を批判するに至った。こうした記述を含む内村のローマ書十三章論に込められた「執拗な抵抗」の勧め」が南原達に継承され、「新しい専門的な知の装置」を駆使した、フアシズム等に対する「抵抗としての社会科学」が実践された。著者は大要、以上のように把握している。

第二章以降の叙述の内、南原らに関する論旨について一言す

ると、南原については西洋政治哲学史の研究、ナチス世界観とヘーゲルや田辺元の家哲学との対決、バルト神学撰取(交叉)の特質等が分析されている。矢内原に関しては、新約の「福音」の中にこそ新たな高められた社会的預言的論理が存在する」とし、また世俗史に介入する神を信する、独自の信仰観に支えられて展開された、日本の植民政策への批判と代案提起や、彼の国体観の問題点等が論じられている。大塚の場合は、福音が社会の底辺で苦しむ人々に希望と視界、解放の力を与える(＝「価値の転倒」との理解に基づき、かつ近代日本に関する透徹した認識のために、西欧特に英国の、農奴解放を伴う「国民経済」＝ネーション(市民社会)の形成過程を探求したこと等が述べられている。特に、天皇制の基底を成す、古代的な「アジア的家産制」の「恭順」のエートス(＝内村らにも存した「魔術」からの解放を彼が求めたことが重要である。

本書を一読して痛感するのは、ライフワークの一部との位置づけにふさわしい、内村らとの多年にわたる対話の厚い蓄積である。著者は彼らの著述や関連文献を精読し、真剣な対決を通じてその制約と偉大さとを浮き彫りにしている。著者らしい平明な文体の明晰で緻密な分析により国家と宗教に係わる問題群が解き「ほぐ」されており、また無教会主義の強みと危険、無教会とカルヴィニズムの関係、社会科学の位置づけ等、示唆的な指摘も多い。無教会の出身で矢内原・大塚との交流があった

だけでなく、ウエーバー、トレルチ、テイリツヒらの学問に通暁し、政治思想史に加えて社会・経済思想史や宗教学等の造詣も深い著者ならではの達成である。

ただ本作りという点で望蜀の言を加えるならば、質量とも豊かな内容だけに、論旨の重複を少し整理する一方で序論的な記述を置いて全体の構成や分析枠組等を簡潔に説明する等の工夫を行えば、より読みやすくてきたらう。人名・事項索引もほしかった。また、注等で誤記がやや目立つ。

ともかく本書は、古典的著作との徹底的な対話により現代的にも意義深い叡知を汲み取るという、思想史研究の真骨頂を發揮した労作である。それは知の断片化と没歴史化が進む今日、最も必要な営為の一つといえる。読者は、内村らの遠大な歴史・社会的な視野と高い志、鋭い洞察、根底にある敬虔な福音信仰、そして「経験の意味を考へ抜くこと」によって成長し続け」た、内村の「驚嘆すべき能力」等に(改めて)瞠目するであろう。そして彼らと著者に学びつつ、(過去の再現を思わせる)現代の国家主義や「民富」と敵対し暴走する「営利」等の諸問題を「凝視」し、知恵と勇気をもってそれらと対決するように、励まされるのではなからうか。

著者は、本書を「不十分な「中間報告」として、さらなる「沈潜」と「研鑽」による前進を期している。その成果の公刊が待望される。

(四六判・三八七頁・本体三三〇円＋税・新教出版社)

(ほんだ・いっお＝九州工業大学教授)

共生の希望を力強く促す
鈴木文治著

インクルーシブ神学への道 開かれた教会のために



関田寛雄

本書は今日の日本の教会のあり方についての根本的な問題提起の書である。副題の示すように全てに對して開かれた教会、キリストの名においていかなるものをも受けとめる教会のあり方について、切実な実践から生れた言葉で主張される神学である。

本書は二部構成であるが、第一部は著者の思想的遍歴である。いわゆる全共闘世代に属する著者は学生としてはノンポリで、ひたすら哲学的模索を続け、ニーチェ、ショーペンハウエルをはじめ実存主義にも傾倒したが、大学卒業後、日本基督教団熊本教会に導かれ、藤原繁子牧師を介してK・バルト神学に出会い、それまでのデカルト的発想から一転し、「私の認識対象として求め続けた述語である神は、私を創り導き救われる主語である神であることを知った。人間から神に至る道はなく、神の述語として人間が立てられている」(三七頁)との認識に立ち至り、「哲学から神学へ」と移行させられていった。

この経過の中で重要なことは、社会的に「周辺化」された障がい者、ホームレス、朝鮮人、アルコール依存症者などを含む

(インクルーシブな) 熊本教会での生活の中で、苦悩する個人的な人格との出会いの中から、神学的思惟の基礎を与えられ、そこから普遍的・構造的課題へと導かれて来たということである。「今、目の前にいる苦しむ人びとに向き合うこと、その一人のために実践することが、その背景にあるものの変革を考えるとより、優先される」(四四頁)という認識が、著者を観念的に変革を論ずる「社会派」と区別する。

いわゆる会社員生活を脱し、中学校の社会科教師を経て特殊学級の教師となり、その中で特殊学級と通常の学級の「壁」を越える試みをなし、そこにインクルーシブ教育の萌芽を見出した。やがてそれは「支援教育」として全ての子どもへの教育的ニーズに応える教育として、全国に知られるようになった(六三頁)。

著者の言う「インクルージョン」とは、「どのような違いであれ、それを理由として排除するのではなく、お互いが受け入れ合い支え合って生きる共生の理念である」(六八頁)。著者にとって「インクルージョン」は本来聖書の使信に根ざしたものであり、キリスト教のメッセージそのものとして、教会のあり

方を示唆するものである。そこからマイノリティの視点に立つ神学が考えられる。ゴンサレスの『キリスト教史』はこの点の示唆を著者に豊かに与える。連帯を本質とする聖書的人間観、異邦人、徴税人・罪人、障がい者・病人などへのイエスの関わりは正にインクルーシブ神学の素材に他ならない。

第二部はその神学を生み出した熊本教会の宣教的・牧会的状況の解明であり、苦悩する個別の人格との出会いが様々な形で述べられる。「宣教とは何か。キリストの言葉は人を介して行われる。一人の人の苦しみに向き合い、支え合って生きるときに、人は心を人にそして神に向かつて開く。神の高みから発する人の声が人の心に届くことはない。絶対に正しいことでも、いや正しいことだからこそ、それを伝えるには同じ低さに立つことが望まれる」(一四九頁)。「脳性マヒの少年」「捨て子の少女」「ホームレス障がい者」「アルコール依存症者」たちとのきめ細かい出会いの中で、「生活的福音」が事実に化していく。著

者はその苦悩の渦の中から「神義論」に言及する。それは著者の神学校の卒業論文に関わるものであり、ベルジャーエフとバルトの神義論をめぐる論議の末、神を弁明するいかなる議論も破れに終ることが、バルトの言葉と共に締め括られている。本書の「エピソード」にはあの苦悩の叫びを挙げ続けた人々への、具体的な神の恵みに満ちた応答の事実が語られる。おそらくこの部分において読者は主の恩寵の勝利に心動かされ、共生の希望へと促されることであろう。

地域を巻き込むインクルーシブ宣教を巡って横浜、寿町での活動への批判的言及がなされているが(二三〇頁以下)、なかば道所におけるインクルーシブ宣教の事実を知る者として、評者は異見を付記しておきたい。いずれにしても神の国の宣教はインクルーシブを本質とするという著者の叫びに傾聴したい。

(せきた・ひろお) 日本基督教団神奈川教区巡回教師
(四六判・二一七頁・本体一〇〇〇円+税・新教出版社)



大崎節郎著作集

第三巻 カールバルト研究1 (全7巻)

大崎節郎
Setsuro Osaki



〈神の言葉の神学〉の誕生

カール・バルトの神学的出発となった『ローマ書』の登場が、20世紀福音主義神学の一つの決定的な転換をもたらした。その初期バルトの神学に迫る論考。バルト神学の重要な「予定論」「和解論」に関する論考を収録。

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価【本体 7,600 + 税】円
ISBN978-4-86325-084-0



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

儀式や線引きではなく「アガペー」を
北村慈郎著

食材としての説教 聖書と現実の往還から



本田哲郎

「終わりから生きる」(二〇六頁)という北村慈郎さんの感覚に感銘を受けた。

本書は2部構成になっていて、前半分はマルコ福音書の1章から6章までのいいねいなホミリア(聖書釈義にもとづく説教)で、後ろ半分は「随想メッセージ」と題して、牧師である北村慈郎さんに現実起こっている教団上層部による不当弾圧を、聖書に照らして告発する。とても説得力がある。

「終わりから生きる」とは、終末論的な生き方であり、「神の正義と現実が支配する神の国の完成(終わり、目標)から現在を生きる」ということだと北村慈郎さんは言う。これは聖書釈義の共通原則でもあるような気がする。イエスの十字架上の死と復活のイエスとの出会いから、新約聖書のものがたりが記録され、イエスこそ「油を注がれた者」すなわちキリストであると理解されてきている。

「この世の国に束縛されないイエスの自由さをもって私たちがこの世を生きる」

「この世の国を、イエスが出てきて帰っていく神の御心に

「わたしはあなたたちに新しい掟を与える。互いに大切に
しあいなさい」(ヨハネ13・34)

「あなたたちは互いに大切にしよう」と以外、だれに対しても、何の借りもあつてはなりません」(ロマ13・8-10)

北村慈郎さんがこの「アガペー」に違反しているというのであれば、教師資格のはく奪は「あり」だろう。しかしじっさい北村慈郎さんは、何よりもこの「アガペー」を優先したい思いの人であることは、かれを知る人たちの一致した見方である。

北村慈郎さんは、遠慮深く「あとがき」の末尾に、関田寛雄牧師を代表とする「北村慈郎牧師の処分撤回を求め、ひらかれた合同教会をつくる会」の宣言を添付している。

その一部をとびとびに抜粋しておく。

「北村牧師の信仰的選択の背景には、釜ヶ崎や山谷と同様に寄せ場である『寿地区』に象徴される権力や社会構造によって虐げられた人々が存在し、その地域への福音宣教を使命とする教会の決断があります」

「ここでは『聖餐』のあり方も問い直されるべき重要課題であり、法的処置の前にまず神学的・教会的討論に開かれるべき現代的な課題です。それは同時に全国各地の地域各個教会の課題でもあります」

「教団成立を含め、『戦争協力』という過去の責任をふりかえり、戦争体制がつけられつつある現在への責任を受け止めるため、『戦争責任告白』は今改めて取り上げるべき

ふさわしく作り直していく仕事に与えられている宿題ではないでしょうか」

「イエスが生きられたように、最も小さく最も弱い人が最も大切にされる国づくりです」

この一連のことは「同じ過ちを繰り返さないために」(一八九頁)という題で吐露される、北村慈郎さんのつよい思いである。

私たち一人ひとりが腹をくくってこの「宿題」「国づくり」に取り組むべきことだとうながされる。

「私は、日本基督教団にあつて、『未受洗者』にも開かれた聖餐式を行っているというので、戒規免職処分を受け、現在教師資格をはく奪されています」(二四〇頁)という北村慈郎さんの現状報告は、わたしには叫びのように聞こえる。

日本基督教団にとつてのみならず、カトリック、プロテスタントのすべての教会にとつて何よりも大事なことは、儀式や線引きではなく、「アガペー」、すなわち人をその人として大切にすること以外の何ものでもない。

対話のテーマです」

「本土」と『沖繩』の……構造的差別の中で、私たちの教団もまた、『沖繩教区との断絶』という痛恨の事態を作り出しており、この現状を打開するための開かれた対話が何よりも必要となっています」

「私たちは、……ひらかれた合同教会としての教団」をつくる教會的責任を負っています」

本書『食材としての説教』という書名にある「食材」に、わたしはその真意をまだつかみきれしていない。また、本書前半分の「ホミリア」のすべてに新鮮さを感じ取ることができないうる。

しかし、後ろ半分の聖書に照らした北村慈郎さんのせきさらな発信に、つよく心をゆすぶられている。みんながこのメッセージにふれることを願っている。

(ほんだ・てつろう＝釜ヶ崎反失業連絡会共同代表、カトリック司祭
(四六判・二八〇頁・本体三二〇円＋税・新教出版社)

ダイナミックな文書に相応しいダイナミックな読み方

W・ブルッゲマン著
中村信博／矢田洋子訳

現代聖書注解 サムエル記 上／下



宮井岳彦

サムエル記には忘れがたい名前が多い。ハンナ、ゴリアト、バト・シェバ……そして、ダビデ。彼らを巡るブルッゲマンの筆は芸術的だ。イスラエルが中央集権国家に変容していく時代の深層をサムエル記は記しているが、この時代のイスラエル社会の変容には異なる三つの要因があったと著者は考える。つまり、「政治権力、社会的圧力および技術的可能性の影響」。第二に「ダビデの特異とも言える個性」。そして、第三に「イスラエルの神、主」である。「サムエル記の物語がその戦略として読者に要求しているのは、これら三つの要因間の緊張、重複、並列と集中とを読み解くことなのである」。もしも、一つでも無視すれば、つまらなく、誤解した読み方になってしまう。著者が提案するのは「文芸的な読み方」で、それは「一連のサムエル記のテキストについての解釈が、権力や個性、そして摂理について、これらの要因のすべてが生を構成するものであることに気づき、畏敬し、祝おうとするところにおいて成立している」であり、これこそ共同体に資すると考える。ダイナミックな文書に相応しいダイナミックな読み方を提案するのだ。

本書を読むと説教者として黙想を促される言葉と出会う。具体的には、ここではサムエル記下第七章について記された内容を紹介し、一つの黙想の可能性を模索したい。

このテキストは「福音主義信仰にとって、旧約聖書で最も重要なテキストの一つである」。この章はダビデの神殿建築の申し出によって始まる。「神殿建築は明らかに、偽りなき敬虔と利己的正当化の入り混じった行為である」と言う。なぜか。まず、神殿は神の箱が表現する「神の自由と可動性」と緊張関係にある。神殿は「政権を強固にするような永遠の住処」になりうるからだ。「ダビデが申し出た神殿の豪華さは、主の自己理解と矛盾する。主は、そんな贅品によって買収されたり、管理されたり、飼いやられたりなどしない。主は自由な神であったし、これからも自由であり続ける」。却ってこれまでのダビデの歴史をふり返ると、彼はどこまでも「主の力強く執拗なる恵み深さの創造物」であり、主の約束は「主があなたのために家を興す」という言葉で頂点に達する。ダビデが主のために家（神殿）を建てるのではなく、主がダビデのために家

（王朝）を建てる。ダビデ個人から王朝へと拡大していく預言者ナタンの託宣は「他のものを犠牲にして益を得る特定の権力構造が、今や神の約束によって正当化され、永遠に保証されるのである。この章句において何が真の信仰で、何が利己的な宣伝なのかを区別するのは、ほとんど不可能である」とする。重要なのは、自分に都合いいような神学的主張と利己的イデオロギーが不可分であることを真剣に受けとめることであると言っ。確かに、我々はテキストに利己的で自分の都合のいいことを言わせることに長けている。ところが他方からすると、真の信仰と利己的な宣伝が区別できないのであれば、一体どうやって真の信仰を育てればいいのか、テキストを相対化するだけではないだろうかと思わないではいられない。しかし、著者はここに福音信仰の根源があると言っている。これまで、神はイスラエルに対して「もし」という倫理的な必要条件を伴う好意を与えてきた。サウルはこの「もし」を果たさなかったために滅んだ（上

一三・一二三）。しかし、ダビデと共にその「もし」は消え、「にもかかわらず」（一五節）になった。「主にこの深い責任的関与を止めさせることができるような不従順行為などないのである」。「これは『恵みによる義認』（ローマ三・二八、ガラテヤ二・一六―二二）の、力強くはつきりした表現である」。更に、著者の筆は旧約のメシア思想にまで進んでいく。この神の自由な「にもかかわらず」こそ、説教者が語るべき福音の言葉だ。こうして著者は社会学的な側面とダビデの個性、そして神のお働きを重んじて黙想を進める。他にも冒頭に挙げた名が記された箇所は本書の特徴が現れているし、ハンナの祈りが全体に響かせる共鳴は興味深い。ぜひ本書を手にとって確かめていただきたい。心から本書を推薦する。

（みやい・たけひこ）カンパウンド長老キリスト教会がみ野教会牧師
（A5判・上巻三四六頁・本体六四〇円＋税・下巻二五八頁・本体五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

60年の経験が注ぎ込まれた
説教者への実際的な道案内



説教への道 牧師と信徒のための説教

加藤常昭



神の言葉として聴かれる説教の原点を確認し、聖書テキストに向き合い説教に至るまで、その歩みの同伴者として、実際に丁寧に解き明かす。

四六判並製・178頁・1728円

ルワンダ 闇から光へ



ルワンダ 闇から光へ 命を支える小さな働き

竹内緑

医療従事者として、アフリカの紛争地や難民キャンプで人々の苦難に寄り添い、和解を求めて働いてきた日々を綴るエッセイ。

四六判並製・104頁・1296円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoubu@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

現代社会に教会がもたらす新しい価値観
東方敬信著

地球共生社会の神学 「シャローム・モデル」の実現をめざして



増田 琴

「東方敬信先生は、長く青山学院大学総合政策学部教授・宗教主任として教鞭をとり、日本基督教団富士見丘教会牧師として務めてこられた。大変な激務の中にいらしたと拝察しつつ、それぞれの分野の「架け橋」としてのお働きが本書に結実していることを読後、深く感じた。

価値の相対化が語られる時代に、キリスト教倫理はどのように倫理的問いに呼応することができるのか。著者は「種を蒔くように新しい価値観を世界の各領域に展開する」ことが本書のねらいだったと記す。「新しい価値観」とは「シャローム・モデル」と言われる、聖書に記され、教会が創出する価値観だ。

「Ⅰ インカルチュレーション（文化内開花）の実践」では、聖書の福音の種が各文化において、どのように具体的な形で表れているかについて述べられている。ミュージカル「キヤッツ」やC・S・ルイスの『ナルニア国物語』など、なじみ深いストーリーに描かれるのは「非暴力的愛の実在力」だ、と。その実践例としてマーティン・ルーサー・キングが挙げられる。そのあり方は反発・抵抗にとどまらず、新しい社会を構築する「希

望の倫理」をもつものであり、黒人教会の歴史から生み出された「シャローム・モデル」である。

「Ⅱ キリスト教のシャローム・モデル」では、より具体的な倫理的課題について展開されている。レヴィナスの「顔の共同体」における和解は、グローバルな世界における新たな価値「オルタナティブ経済」を生み出すのではないか。その実践がキリスト教会の聖餐式において表されている、と。本書の特徴であり、魅力は、こうした現代思想、倫理について、「対抗文化」（カウンターカルチャー）としての「教会の視点」が明示されている点にある。経済活動を文化の立場から考えることにより、相互性や環境保全への「スチュワードシップ」（受託責任）が展開されて、聖書的な価値観を見出すことができる。

「Ⅲ 卓越社会へ向かう証し」では、「尊敬ある充実した人生」について、教育学の観点から語られる。神の贈与によって、自己溶解と悔い改めを通して「新しい人間の誕生」が起こる。それは単なる成長ではなく、生成変容の教育学としてのキリスト教教育だと述べられている。教会は、こうした価値共同体と

して生きており、礼拝において、シャローム・モデルに参与することになる。著者が対話を通じてきたハワーワズやウィリモンが語る礼拝共同体の力は、創造的行為、使命共同体としてのあり方へ押し出している、と。

シャローム・モデルの実践として取り組まれたフェアトレード運動についても述べられている。その活動を通して、社会起業とは、福祉、教育、環境などの社会的課題に取り組み、新しいビジネスモデルを提案し実行する社会改革の担い手であり、それは「キリスト教的共感」によって支えられるべきだ、と。

アカデミックな場と教会の場。日本という土壌、現代社会の山積する課題の中で、キリスト教が何を伝え、種を蒔こうとしているのか。多様な局面から語られている。一つの教会での働きでは網羅することのできない視点が与えられる。

大学の講義で用いられたこともあるのだろう。ミュージカル「キヤッツ」とキリスト教、「タイガーマスク現象」からパラリ

ンピックへ、とよく知られた題材が並び、興味をひかれる。読み始めると、キリスト教の価値観や現代神学の勘所に分け入りよどみがない。「入り口は入りやすく、奥が深い」という、理想的な展開といえる。この本を一冊読むことで、社会倫理について必要な知識や観点を得ることができる。引用されている文献も豊富。多くのことを学ばせていただいた。

読書会や授業で本書が読まれ、二一世紀のシャローム・モデルを生み出す働きへつながる、豊かな出会いを起こしていくことを望みたい。

ギリシア語 新約聖書釈義事典

H・バルツ／G・シユナイダー 編 荒井献／H・J・マルクス 監修

新約聖書本文に現れる全ギリシア語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化。

● A5判・函入・三巻セット・本体63,000円
第I巻544頁／第II巻644頁／第III巻600頁



教文館の本

http://shop-kyobunkwan.com/

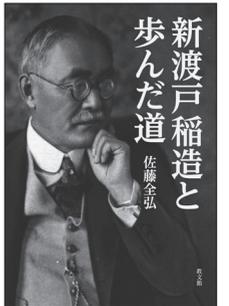
牧師・神学生必携!



〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 図書目録 ● 価格は税抜

新渡戸の世界平和への想いを語り継ぐ
佐藤全弘著

新渡戸稲造と歩んだ道



柴崎由紀

著者の佐藤全弘先生（大阪市立大学名誉教授）は、長年、新渡戸稲造研究の道を歩まれ、数々のご執筆やご講演を続けてこられました。まさに新渡戸研究の第一人者でいらっしゃると思います。『新渡戸稲造全集』（教文館）第二次の編集をされたほか、これまでに数多くの新渡戸関連の御著書があり、また、新渡戸博士の英文著作の翻訳もされています。英語で書かれた国際的なロングセラー『武士道』の日本語訳書も教文館から出版されています。あまりにも有名でありながら、時には難解とされる同書については、詳細な脚注が入っており、版を重ねています。

新渡戸稲造博士没後八十年の二〇一三年、『新渡戸稲造事典』（佐藤全弘・藤井茂著、教文館）が出版されました。新渡戸研究者や関係者にとりまして、「座右の書」となる待望の一冊。詳細な年表や人物紹介が含まれており、これまでの新渡戸研究の集大成です。その出版記念講演の会場は、大変な盛況ぶり、多くの人であふれました。

このたび、近年のご講演の記録を中心に、年刊誌『新渡戸稲造の世界』（新渡戸基金）の寄稿文なども収録された渾身のメ「人」という文章の一部です。

「全人類が兄弟となり、戦争が人類を引裂くことなく、戦争の噂が女性の心に恐れを抱かせることもない未来の夢を私は夢見る。偉大な夢想家が見た夢で無駄だった夢はない。偉大なる夢でそれに姿を与える実際の天才が見つからなかったものはない。」

（二二五頁）

新渡戸博士から現代の私たちへの伝言のように聞こえます。平和な未来の姿を夢見ながら、遠く異国の地で新渡戸博士は亡くなり、その後、日本は戦争へと突き進んでいきました。

戦後七十年に出版された本書は、長年、新渡戸研究の道を歩んでこられた佐藤全弘先生が、新渡戸博士の世界平和への願い、実践、そして、時には魅力あふれる人間像を、まるで「架け橋」

ッセージ集『新渡戸稲造と歩んだ道』（教文館）が刊行になりました。佐藤先生の貴重なご講演の数々を、こうしてじっくり拝読できますことは、新渡戸稲造博士の足跡をたどりつつ学ぶ私たちにとって、大きな恵みです。

本書には、『新渡戸稲造事典』の出版記念講演「リンカーン、イエス、新渡戸稲造——ユーモア三題話」も収録されています。続いて「人は死んでなにを残すか——新渡戸稲造の場合」では、新渡戸博士が多岐にわたって私たちに遺してくださった多くの遺産について、真摯に、わかりやすく語りかけていらっしやいます。さらに、それが日本に留まらず、世界にも広く影響を及ぼし続けていることが、次章の「オーランド諸島問題の現代的意味」でわかります。新渡戸博士が国際連盟の事務次長、国際部長として、およそ百年前に解決に導いた国際紛争を、今日でも世界のいたるところで起こっている国境問題にも重ねて、丁寧に解説されています。

本書の中で、佐藤先生が繰り返し紹介されている新渡戸博士の言葉があります。亡くなる数カ月前に書かれた「夢と夢見るのように、現代そして次代へと広い年齢層の読者に語り継いでいらっしやいます。」

新渡戸博士は、ジュネーブの国際連盟では各国からの職員の人たちに、そして家族の方々にも、「自分が死んだあと二十年たったとき、自分を理解し覚えていてくれる人がたった一人でもおれば満足だね！」とたびたび言っていた、と佐藤先生は直接、新渡戸博士の養女ことさんに伺ったと書いておられます（八六頁）。

二十年をはるかに超えて、すでに没後八十年。私自身も、新渡戸博士の生涯から多くを学び、さまざまな出会いに恵まれました。佐藤全弘先生のこれまでの尊い歩みをこうして共有できますことに、心より感謝を申し上げます。

（しばぎき・ゆきライター・編集者）
（四六判・三二四頁・本体一〇〇円＋税・教文館）



新刊 死生学年報 2016

生と死に寄り添う

東洋英和女学院大学
死生学研究部編
●A5判並製 本体2500円＋税

「良き死」の諸相
津曲真一

●
継続する絆をつなぐ
宗教的資源
谷山洋三

●
死に抗って一
死をまぢかに控えた人間はなぜ
リハビリテーションをするのか
松岡秀明

●
ツィリスの天井画にみる生と死
鈴木桂子

●
『ギルガメシュ叙事詩』の新文書
渡辺和子

●
人間のいのちの尊厳は
どこにあるか？
森岡正博

●
死に向き合うことで生まれるもの
片岡朝子

●
『イナンナの冥界下り』を
シュメール語で
上演することについて
高井啓介

●
他、12篇

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

才能豊かなミュージシャンの刺激的な言葉

沢 知恵著

私のごすべるくろにくる



深田未来生

著者は、自身の心を打ったある音楽家について語る中で、こう書いている。「自分のことはで思いを語りかけること。それを聴く人がうなずき、ほほ笑み、爆笑し、ときに涙してくれること」(二〇頁)。

コミュニケーションを、それも聖書の発するメッセージを語り伝えることを課題として生きてきた人間にとって、彼女のこの言葉は鋭く射た表現として心に届く。著者である沢知恵さんは音楽においても著作においても洗練されたコミュニケーションであることをこの一冊は明らかにする。読みながらうなずき、笑い、涙しながら、心の奥底に不思議な温かさが湧きあがってくるのを感じる。そして数多い彼女のCDを再び聞いてみたくなるのである。

受け継いだ才能と熟成させてゆく個性

沢さんは優れた両親の長女として生まれた。よくもここまで両親の長所を受け継いだものだと不思議にすら思う。そして芽生えていった彼女自身の思想と人生観が厳然と現れてくるのを

発見する。両親同様に強い個性の持ち主でありながら、彼女らしい温かさ、明るさを存分に備え、幼い時からなじんだピアノを弾きつつ歌う。そんな彼女の歌には、人間のあらゆる側面に

にじみ出ているようだ。人間はすべてが美しくはない。そこには悲しみも、恥ずかしさも、怒りも、醜い争いも、癒えない傷も、実らない愛もある。それでも貫き乗り越えたところに、一人ひとりの人間に秘められた宝石のような「たまもの」「その人らしい素晴らしさ」が開花することを、沢さんの歌は伝えてくれる。聴く者は、気がついたらその歌を自分のものとして口ずさんでしまうのである。そして何が沢さんをそうさせているのかを考えてくなるのだ。

この本は彼女が言う「お堅い雑誌」である『福音と世界』(新教出版社)に連載されたものを編集して出来上がった。自分の誕生する一年前の一九七〇年から歌手デビュー二十五周年を記念する二〇一五年まで一年ごとに、その年にまつわる曲への思いを、自分の歩みに触れながら、世界の出来事にも触れつつ綴っている。この手法はユニークで愉快である。

私は、この本の最後に掲載されている、ミュージシャンであり音楽評論家でもある中川五郎さんと沢さんの対談から読むことにした。これは「当たり」であった。沢さん自身が自分を見る目も興味深い。また、尊敬と愛情の眼差しでミュージシャン仲間である彼女を見る中川さんの言葉は実に鋭く、彼女の将来への支えとなるものが満ちていて、さらに興味深いのである。この対談を一読してから、私は一気に四十六篇の随想を読んできました。

深みにいざなう感性

随想のように短い文章を書くのはけっして簡単なことではない。一定の能力と自己訓練と規制、適切な言葉の選択、そして何よりも書き記したいポイントの鮮明さが求められると私は思う。このことは、聖書を中心的资料として語る説教についてもいえることだろう。沢さんは「さらっと」書いているように見えるのだが、けっしてそうではない。語り、伝えたいことをはつきりさせようとする努力がにじみ出ているのである。

さらに強い印象を与えるのは沢さんの豊かな感性である。それも彼女の著作を読んだり、歌を聞いたりする人をいざなうって人間の心の深みへと歩みを共にする意欲を掻き立てる感性である。

彼女はどう見ても独り歩きをするタイプではない。常に他の人間たちと共に生きようとする人柄が、香りのごとく文章と歌

から漂ってくるように思える。たとえそれが、考えや信仰や感覚を共有しにくい相手であっても、何かが彼女の心に響くと、彼女は素直に感動するのである。そして読む者はその感動をほとんど知らないうちに自らの心に感じ取ってしまう。一つにその感性がほとんど天真爛漫とでもいえる自然なものだからなのかもしれない。私は心がいつになく豊かになってゆくのを感じながら読み終えた。

沢知恵さんは芸術家の持つ優しく繊細な感性と、家族を通して心に芽生え育ってきた愛の源なる神への希求の心、そして複雑なものを理解しようとする思想家の要素とを培いながら歌い続ける、才能豊かで刺激的なミュージシャンである。

(ふかだ・みきお 同志社大学名誉教授
B6変形判・二二〇頁・本体一五〇〇円+税・新教出版社)

お詫びと訂正

本誌2016年5月号16頁の見出し2行目及び本文2行目と5行目の北村滋郎牧師は北村慈郎牧師の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集部

主著の待望の邦訳始まる

N・T・ライト著

山口希生訳

新約聖書と神の民 上巻



小林高德

一九九〇年代初頭の英国新約学会で、著者と話す機会があった。ちょうど本書を書き上げておられる頃と重なる。「今、どのような研究を？」と問うと、本研究プロジェクト「キリスト教の起源と神の問題」について、駆け出しの学徒に懇切丁寧に解説してくださった。

本書は、その壮大な新約聖書神学を構築する試みの序論である。この試みは、ただ単に従来の聖書学における歴史的な研究にとどまらず、キリスト教神学との関わりで聖書学が本来果たすべき働きを回復しようとするものでもある。

学問的な新約聖書神学が、真実な神の言葉を教会と社会に宣べ伝える教会のつとめに仕えるものであることを、ライトは強く認識している。それゆえ、新約学研究の営みが、一般社会の監視と批判から自由な領域でなされる「キリスト教徒たちの内輪もめ」にならないようにと自戒する。さらに本書で、西洋世界が今日直面する、より大きな課題と対峙する。「過去2世紀に亘って西洋世界に影響を及ぼし続けてきた世界観が内側から崩壊してゆくのを目の当たりにして、その基本的な世界観について再考しようという試みである」(六六―六七頁)。

存在によるイスラエルの民の復興と神殿の再建を待望していたと観察する。

ライトは、本書を含む膨大な著作で何をを目指しているのだろうか？ それは、近代の聖書学によって危機にさらされた神のことばとしての聖書の権威を、教会と信仰者の信仰と行いの中心に据え直すことであろうと思われる。彼を突き動かしているのは次のような確信であろう。創造主なる神は、主イエス・キリストをとおして働いている。復活のキリストは、十字架の死にいたるまでの忠実さをとおして契約の約束を実現し、人類の救いを達成するとともに、人類と全被造物のシャロームの回復をご自身の教会をとおして成し遂げられる。この神の国のプロジェクトに、教会と信仰者を巻き込むことを意図している。

このたび、ライトの下で学ばれた山口希生氏による優れた邦訳が出版されることは大きな喜びである。巻末に付された翻訳者による著者紹介は、ライトの仕事全体と本書の位置づけを明

著者が強調した次の点が、今でも印象深い。今日の新約学では歴史的・文法的方法論を用いた分析的な研究がほとんどだが、それらを統合することが不可欠である、と。一方に、歴史批評的な新約研究と教会における神学的な読みの乖離があり、他方には、聖書解釈における読者個人の「今」にとって意味のある読みに重きを置くポストモダンのな解釈が生み出した混沌がある。そのような状況に対して、ライトは「批判的実在論」に基づき、新約学における歴史、文学、神学的探求の統合を主張する。それは、従来の研究が一つを強調するあまり全体としてのバランスを欠くものとなっているとの理解に基づきつつ、ライトの著作が意図する大きなプロジェクト遂行のために必要なことと捉えている。

初期ユダヤ教に関しては、離散の民の結集によるイスラエルの民の回復、契約における神の忠実さと義認、地上における復活と民の回復などについて、影響力があり、また今日も論争の対象となっている主張が展開されている。第二神殿期のユダヤ教文献から、イエス時代のユダヤ人は捕囚からの帰還を未達成とみなし、神と民との契約関係における義認と救い、メシアの確にしている有益である。歴史的方法論を用いた新約聖書研究が主流である本邦においては、歴史的研究に加えて、神学と文学や解釈学との対話は目新しいばかりか、新鮮に映ることは間違いではない。優れたバランスのとれた新約学の方法論と新約聖書解釈の大きな可能性に目を開かせてくれること請け合いです。新約学徒や説教者にとどまらず、新約聖書を深く読みたいと願うすべての読者に、またグループ研究などの底本として、味読をお勧めしたい。円熟期を迎えようとしていた新約学者トム・ライトの真骨頂がここにある。

「上巻」に当たる本書は、序論的問題提起をする第I部、学問的方法論を扱った第II部、新約聖書の初期ユダヤ教的背景を扱った第III部の三部から構成される。新約聖書解釈の鳥瞰図を提示する「下巻」と合わせて読むことを勧めたい。

(こばやし・たかのり)東京基督教大学(学長)
(A5判・六〇九頁・本体六四〇円＋税・新教出版社)

厚木・長谷集會牧師 齋藤孝志著

信仰とは何か?

ヘブライ人への手紙に徹して聴く

信仰とは何か?



「信仰をもつ」とは、
どういうことなのか?

「信仰をもつ」とは、どういふことなのか? 預言者・大祭司・王であるキリストの仲保によって得られる新約の恵みを旧約との連続から説くヘブライ書に「徹して聴く」。そのただ中から、苦難にあるうとも信仰によって生きることの意義が克明に描き出されてくる。

●ヨベル新書 Yobel No. 33 三〇三頁・一、〇〇〇円十税

協・力・編・集

キリスト教雑誌 2016 第3号

共助

A5判・定価 500円 (税込)

特集
自民党憲法草案と安全保障法制の問題点を学ぶ
——日本国憲法との比較——

講演者 弁護士・植竹和弘
講演1 自民党憲法改正草案について
講演2 安全保障法制の問題点
説教 共助会の使命を求めて 飯島 信

巻頭言: 小淵康而、説教: 原田博充、【聖書研究】1 テサロニケ 七條真明【随想】神に従う者の行く道は平らです 関口美樹
バックナンバーもごぞいます。
お問合せはヨベルまで。

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

十字架を見つめ、神にすべてを委ねる祈りの世界
ヨッヘン・クレッパ―著
富田恵美子・ドロテア、富田 裕訳／森本二郎写真

キリエ
祈りの詩



川崎公平

五年前に教文館から刊行された『キリエ——宗教詩集』が世に出て以来、私の周辺でもクレッパ―のことがしばしば話題になった。それまで、日本ではほとんど無名の詩人だったのではないか。それがこのたび、新しい装いで再び紹介された。全訳版から九篇を抜粋し、それに森本二郎氏の写真を添えたものである。この五年の間にクレッパ―の詩が多くの人に喜んで受け入れられたことを意味すると思う。

すばらしいの一言に尽きる。実際に朗読し、これを祈りの生活の中に取り入れてみるとよいと思う。翻訳もすぐれているドイツ生まれであり、クレッパ―の研究により博士号を得ている妻が、ドイツ文学者の夫の助けを得てなされた翻訳であるから、これ以上のものを求めるのは不可能かもしれない。

クレッパ―の生涯については、全訳版の「あとがき」からも知ることができる。それと合わせてお勧めしたい文章は、宮田光雄著『いのちの証人たち——芸術と信仰』（岩波書店、一九九四年）所収の「みつばさの陰に」である（同じ文章が、同氏の著作集の最終巻の最終章にも収められている）。一九〇三年

に牧師の子として生まれ、自身も牧師の道を志したが、それを断念して作家、詩人として名を高めた人である。しかし、ユダヤ人の妻を持つという理由で、ヒトラー政権のもと、職を奪われるなどさまざまな不自由を強いられた。ユダヤ人に対する迫害が厳しくなるなか、妻と次女は国外に逃亡する時機を逸し、そのうちに強制収容所に送られる危険が迫ってきた。そして遂に自宅で家族と共に自殺しなければならなかったのである。

この決断について、クレッパ―自身が日記にこう書いている。「自殺の罪だけは、神の赦しの外に置かれるのだろうか」「私たちの頭上には、祝福のキリスト像が立っている。この方のまなざしの中で、私たちは死ぬ」。自分のいのちも、家族のいのちも、それどころか自分の罪さえも、神の恵みの中にゆだねる信仰、それがひとつひとつの作品からも滲み出ている。「夕べの歌」という、詩編第四篇九節に基づく歌がある。

主よ、あなたに守られて身を横たえ、
わたしは平安のうちに眠りにつく。

御腕に休らう者にこそ／まことの安息が与えられる。
いつも目覚め、助け癒すのは、／主よ、あなただけ。
闇夜の陰が／わたしの心を不意に怯えさせるときも。

主なる神に対する信頼の歌が、実に明るい言葉で歌い上げられている。しかもその行間には、ヒトラーの支配に抗する信仰の戦いの厳しさをも読み取ることができる。けれども、肩肘を張るようなところはどこにもない。ただ主の憐れみにすがらるのみ。「キリエ」（ギリシア語で「主よ」という言葉が既に、「主よ、憐れんでください」という祈りを思い起こさせるものである。それが、クレッパ―の祈りのところそのものであったと思う。

五年前の全訳版を読めば明らかであるが、これらの歌はすべて聖書の言葉に基礎づけられたものである。その聖書の引用が、今回の版ではすべて省略された。クレッパ―の歌そのものが聖

書の言葉を豊かに響かせているので、そんなことにこだわる必要はないのかもしれない。たとえばせめて、巻末にそれぞれの歌の背後にある聖書の箇所を列記すればよかったとも思う。

もうひとつ私が喜んでいるのは、添えられている写真である。森本氏自身が「あとがき」に書いておられる。「ただただ、燈火を載せる燭台のように、写真をおけたらいい。それも、自体が存在を主張する「工芸品」ではなく、ひたすらに単純な器具として。「上に載った詩の灯が、少しでも安定してその確かな光をともし続けられるお手伝いができたら、と願いながら」。その願いは、少なくとも私においては見事に実現したと思う。クレッパ―の祈りのところが、私たちを生かす力となることを願いながら、本書を心からお勧めしたい。

（かわさき・こうへい）日本基督教団鎌倉雪ノ下教会牧師
（四六判変型・六四頁・本体二二〇〇円＋税・教文館）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

神学の基礎知識を網羅



好評発売中!

神学の
小径Ⅲ
——創造への問い

創造信仰と自然科学を讀む! 芳賀力●著
■A5判・440頁・4,500円



▼チャペルアワーで語られた現代を生きるための奨励集!
すてたもんじやない

——同志社大学チャペルアワー・メッセージ
越川弘英●著
今、キリストの福音を伝える! 現代人に向けて語られたメッセージの数々。
■四六判・216頁・1,000円

キリスト新聞社
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (価格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

福音の新しい歌を歌うために
梅津順一著

その神の名は？
キリスト教への招待



近藤勝彦

本書の著者梅津順一先生は、現在の日本では希少価値に属するキリスト者の社会学者であり、マックス・ヴェーバーとユーリタニズム、並びに近代日本の思想史研究者としてよく知られている。その先生が青山学院院長の使命を担って、青山学院とキリスト教学校、またそこで学ぶ若者たちのために語られたメッセージが本書である。

全体は3章に分かれ、第一章「明日の社会をつくる」は「青山学院院長就任の辞」をはじめ、学院創立記念礼拝など、院長として語られた文章5篇が収められている。第二章「新しい歌を——キリスト教学校と教会」は、著者の出身教会である日本基督教団山形六日町教会での講演など、教会における伝道講演3篇が収められている。第三章「その神の名は？」——大学チャペルにて」は院長就任以前の大学でのチャペル説教10篇で、聖学院大学時代のものや青山学院女子短期大学での講演も含まれている。序に代えて掲載された青山学院クリスマス点火祭の説教を加えて、計19篇が本書を成している。

第一章では、著者は社会学者・近代社会思想史家の眼力を

もって、青山学院のみならず、日本のキリスト教学校が置かれている現状を歴史的に認識し、現下の課題を捉えようとしている。特筆してよいのは、著者が伝道する者の心をもって、「神への献身」を重んじ、それを受け継ぐと語っていることである。青山学院はまことに適任の院長を得たと言うべきであろう。著者はまたその研究によって、福沢諭吉の教育による日本の近代化の試みをよく知っている。そのうえで、現在の科学の倫理的危機を視野に入れ、むしろ人間の知的能力の限界を知り、主なる神に尋ね求めなければならないと語る。そこで、宗教より学問が大事とした諭吉に対し、「人間の魂の奥底から新しくなることを重視」した本多庸一がまさると語っている。

第二章では、キリスト教学校に働く著者が教会を場として伝道の言葉語り、現代社会の危機的諸問題を視野に置きながら、教会とキリスト教学校の連携を求め、「キリスト教学校は教会の信仰の力によって支えられなければならない」と語る。さらにこの章の標題でもある講演「新しい歌を主に向かつて歌え」の中では「共に日本の教会の将来を考えて行きたい」との願い

を表明し、日本の教会に対して提言が語られる。教会が「一教会平和主義の落とし穴」に落ちて、教会員だけの閉じた場所になっていないかと著者は問う。「信仰の言い表し方がどうしても内向きになってはいないか」と。それから一人でなく、教会という「合唱団」として、福音の新しい歌を歌う、その準備と効力について語っている。著者がなお希望を失っていないところが大変よい。著者は何しろ、堅固なクリスチャンであった母上の願いで幼児洗礼を授けられ、教会学校に通わされ、高校二年生で信仰告白し、今はその夫人が牧師として奉仕しておられる、言うならば筋金入り（どんな筋金もそれ自体では脆いとしても）の教会人である。日本の伝道不振について、いまからでも遅くはないと言うにはよほどの神からの示しをなければならぬが、しかし著者の研究者としての眼力を生かしてこの伝道不振の「現状分析」「原因の解明」「原因への対処」の究明のために今後も尽力願いたい。

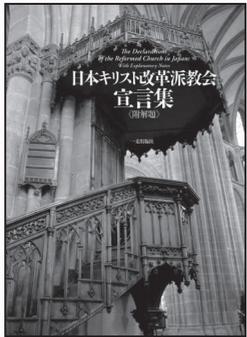
第三章には本書の表題になったチャペル説教が含まれている。日本の宗教性は「神仏の加護」を感じても、「その神の名」を問うことをしない。神の名と真実を問い詰めない。結局のところ「お札」や「占い」に身をゆだねる。それは結局、何が起ころうと「何とかなるとの根拠なき楽観」に通じるのではないかと著者は言う。「神の名を求めることを避ける態度が、……（現にある）問題を避けた」と。第三章の説教群は、意図して「キリスト教への通路」を指し示すのにとどまっている。しかし「通路」のよき指し示しには、すでに指し示される内容が雄弁に語り出されている。それは十分な仕事と言いつても可いであろう。学生の皆さんをはじめ、キリスト教学校の関係者たち、そして教会の牧師・伝道者、信徒の方々にも本書の購読をお勧めする。

（こんどう・かつひこ＝東京神学大学名誉教授）
（四六判・二三〇頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）



日本キリスト改革派教会 宣言集

《附解題》



教会形成と福音宣教の源

「教会と国家」「聖書」「聖霊」「福音の宣教」「予定」「伝道」「終末の希望」、そして「福音に生きる教会」「善き生活」についての信仰の宣言。

A5判・上製
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-092-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-18
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

本屋さんを選んだ お勧めの本

教文館キリスト教書部

加川昌宏

『若者と生きる教会』

大嶋重徳著



1,200円+税
教文館

少子高齢化がすすむ昨今、教会においても少子高齢化がすすみ、若者の教会離れが現実のものとなっています。そのような中で刊行されたのが本書です。

どうすれば若者が教会に集まるのか？ 信仰継承に必要なことは何か？ 若者に届く説教とは何か？ というテーマで、具体的・実践的に語られた講演。今の教会にとって良い助け手となってくれることと思います。誰もが実践できるヒントがここにあります。

『世界で一番 たいせつな あなたへ』

片柳弘史著



1,200円+税
PHP研究所

聖人に認定される見通しとなったマザー・テレサ。死後発見された手紙を、カルタツカ（コルコタ）でボランティア活動に従事し、マザーの勧めで神父になった著者が一冊の本にしました。副題は「マザー・テレサからの贈り物」。今こそ伝えたい本物の人生、本物の愛がここにあります。世界中の笑顔を広げるアーティストRIEさんの絵とともに楽しんでください。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目5-1

TEL: 03-3566-1848

FAX: 03-3566-1288

URL: <http://www.kyobunkwan.co.jp>

E-mail: xbooks@kyobunkwan.co.jp

ネット通販室イーショップ

: <http://shop-kyobunkwan.com/>

恵泉書房

関 達夫

『新約聖書ギリシア 語釈義事典(縮刷 版)』

H・バルツ他編



3巻揃い 63,000円+税
教文館

「キリスト教本屋大賞2016」は、四月にノミネート作品が発表され、フェアを展開しつつ大賞の投票に入りました。選ぶ書店員はほとんどが信徒ですので、ノミネート作品も「信徒にお勧め本」が比較的多くなっています。「本屋さんが選んだお勧めの本」の記事も同じような傾向があります。今回はあえて（無謀を顧みず）「先生方にお勧めの本」として、『新約聖書ギリシア語釈義事典(縮刷版)』を選んでみました。初版は一九九三年（二巻）から一九九五年（三巻）に発行され、全巻揃えると二二六〇〇〇円(税別)という大辞典です。にもかかわらず、一巻は二〇〇二年に再版するほど読者に受け入れられました。それが、昨年五月、教文館一三〇周年事業の一環として、「全巻セット縮刷版」を、従来版の半額で発行しました。限定五〇〇セットですので在庫に限りがあります。早めのご注文をお勧めいたします。もし品切れとなっても、ご安心ください。価格は高いですが、活字の大きな従来版があります。

『人生を導く5つの 目的(増補改訂版)』

リック・ウォレン著



2,300円+税
パーパス・ドワン・ジャパン

初版（二〇〇四年六月）は、副題として「自分らしく生きるための四〇章」とあり、一日一章ずつ自分自身への適用を考えつつじっくりと読み進めるよう配慮されています。私も四〇日（+アルファ）かけて試してみました。散漫だった信仰が整理整頓されすっきりとした気分になりました。信仰者にも求道者にもお勧めできる本であり、今まで当店でも五〇〇冊以上販売いたしました。その「増補改訂版」が、二章追加されながらも、手軽なサイズで価格も下げるといっていい作りで出版されました。忙しい時代だからこそ、一章ずつジックリと向きあっていけば、心の信仰の部屋は片付き、新しい発見があると思います。改めてお勧めいたします。

恵泉書房

〒260-0021 千葉市中央区新宿2-18-2 千葉ク

リスチャンセンタービル2F

TEL: 043-238-1224

FAX: 043-247-3072

URL: <http://www.keisen.christian.jp>

E-mail: keisen@vesta.ocn.ne.jp

キリスト教 本屋大賞 2016

全国のキリスト教書店員が選んだ
いちばん読んでほしい本



キリスト教本屋大賞の概要

【選出方法】
 ■一次選考(2016年2月1日~2月29日)
 ▶▶無事終了いたしました。
 投票用紙をキリスト教出版販売協会加盟書店に配布し、ベスト3を投票。合計得点の多い10作品(今回は10位が6作品のため15作品)をノミネート作品としました。(1位=5点、2位=4点、3位=3点)
 ■二次選考(2016年5月1日~6月30日)
 ▶▶ただいま審査に向けての準備中です。
 ノミネート15作品の中で決戦投票を行い大賞を選出します。
 ▶▶大賞発表 8月1日予定
 投票に参加した全国の加盟書店の店頭、フェイスブック、主なキリスト教新聞、雑誌等で発表します。お楽しみに!

2015年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。



- ①メディアにむしばまれる子どもたち
田澤 雄作◎著 1,404円(四六判、教文館)
- ②祈りのともしび—2000年の信仰者の祈りに学ぶ
平野 克己◎編 1,296円(四六判、日本キリスト教団出版局)
- ③浅子と旅する。
中尾 祐子◎著 1,296円(四六判変型、フォレストブックス)
- ④祈りのみち—八木重吉詩集
八木 重吉◎著 1,296円(A5判、キリスト新聞社)
- ⑤聖書人物おもしろ図鑑 旧約編
大島 力◎監修 1,620円(四六判、日本キリスト教団出版局)
- ⑥キリスト教資料集
富田 正樹◎著 1,080円(B5判、日本キリスト教団出版局)
- ⑦よくみてさがそう せいしょえほん クリスマス
日本聖書協会◎文 キル・ガイル◎絵 1,296円(304×208mm、日本聖書協会)
- ⑧クリスチャンであるとは—N・T・ライトによるキリスト教入門
N・T・ライト◎著 上沼 昌雄◎訳 2,700円(四六判、あめんどう)
- ⑨あなたらしく生きる
山内 英子◎著 1,080円(B6判、日本キリスト教団出版局)
- ⑩信じない人のためのイエス入門—宗教を超えて
ジョン・シェルビー・スポンク◎著 富田 正樹◎訳 3,996円(A5判、新教出版社)
- ⑪忙しい人を支える賢者の生活リズム
ケン シゲマツ◎著 重松 早基子◎訳 1,944円(四六判、いのちのことば社)
- ⑫精神障害と教会—教会が教会であるために
向谷地 生良◎著 1,620円(四六判、いのちのことば社)
- ⑬人を恐れず天を仰いで—復刊「一週一信」
広岡 浅子◎著 1,836円(B6判変型、新教出版社)
- ⑭幸せはあなたの心が決める
渡辺 和子◎著 1,080円(B6判変型、PHP研究所)
- ⑮ふくいんしよえまき イエスさま
上條 滝子◎絵・文 1,404円(B6判、キリスト教視覚センター)
(※表示価格は、8%税込価格です。)

2016年6月~9月加盟書店にてフェア展開予定

【キリスト教出版販売協会加盟書店】

- | | | |
|-----------------------|----------------|-----------------------|
| (札幌市)北海道キリスト教書店 | (横浜市)横浜キリスト教書店 | (松山市)松山キリスト教書店 |
| (盛岡市)善隣館書店 | (新潟市)清光書店 | (北九州市)北九州キリスト教ブックセンター |
| (仙台市)仙台キリスト教書店 | (静岡市)静岡聖文舎 | (福岡市)新生館 |
| (千葉市)恵泉書房 | (名古屋市)名古屋聖文舎 | (熊本市)キリスト教書店ハレルヤ |
| (狭山市)聖公書店 | (京都市)京都ヨルダン社 | (中頭郡西原町)沖繩キリスト教書店 |
| (中央区)教文館キリスト教書部 | (大阪市)大阪キリスト教書店 | |
| (新宿区)ABC(アパコ・ブックセンター) | (堺市)びぶろすの森 | |
| (新宿区)キリスト教書店ハンナ | (神戸市)神戸キリスト教書店 | |
| (港区)バイブルハウス南青山 | (広島市)広島聖文舎 | |
| (杉並区)待晨堂 | (徳島市)徳島キリスト教書店 | |



<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>

既刊案内 (2016年2月～3月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
エラスムス著 金子晴勇訳	〈キリスト教古典叢書〉 エラスムス神学著作集	A 5	712	6,800	教 文 館	2/25
近 藤 勝 彦	救 済 史 と 終 末 論 — 組織神学の根本問題3	A 5	472	6,200	〃	2/25
G.M.バーク/D.ラウバー編 本多峰子訳	だれもが知りたい キリスト教神学Q&A	A 5	238	2,800	〃	2/25
内 坂 晃	闇の勢力に抗して	B 6	414	3,000	〃	2/29
浅野淳博、伊東寿泰、 須藤伊知郎ほか T.ピーターズ、 R.J.ラッセル、 M.ヴェルガー編 小河陽訳	新約聖書解釈の手引き	A 5	338	3,200	日本キリスト 教団出版局	2/20
鈴木文治	死者の復活 — 神学的・科学的論考集	A 5	442	5,600	〃	2/22
鈴木文治	インクルーシブ神学への道 — 開かれた教会のために	四六	217	2,000	新 教 出 版 社	2/20
ジョン・グリーンリー・ホイティア著 根本泉訳	雪に閉ざされて — 冬の田園詩	四六	120	1,700	〃	2/29
会衆主義教会研究会編	会衆主義教会パンフレット3 — 会衆主義教会の使命 — キリストに与えられた務めと希望	A 5	86	500	キリスト新聞社	2/1
関西学院大学神学部編	教会とディアコニア — 関西学院大学神学部ブックレット8	A 5	150	1,500	〃	2/1
大 崎 節 郎	大崎節郎著作集5 — カール・バルト関連	菊判	483	7,000	一 麦 出 版 社	2/1
梅 津 順 一	その神の名は? — キリスト教への招待	四六	230	1,800	教 文 館	3/10
本 井 康 博	新島襄と明治のキリスト者たち — 横浜・築地・熊本・札幌バンドとの交流	A 5	398	3,800	〃	3/20
戸 田 聡 編 訳	砂漠に引きこもった人々 — キリスト教聖人伝選集	A 5	308	3,500	〃	3/25
片山はるひ、 高山貞美編著	福 音 の 喜 び — 人々の中へ、人々と共に 2015年上智大学神学部夏期神学講習会講演集	四六	290	2,800	日本キリスト 教団出版局	3/25
福嶋裕子、大宮謙、左近豊、 スコット・ヘイフマン編著	3.11以降の世界と聖書 — 言葉の回復をめぐる	A 5	210	1,700	〃	3/25
沢 知 恵	私のごすべるくろにくる — 私的音楽年代記!	B6変	120	1,500	新 教 出 版 社	3/1
青 野 太 潮	「十字架につけられ給ひ しままなるキリスト」	四六	312	2,000	〃	3/10
荒 井 献	使 徒 行 伝 下 巻 — 現代新約注解全書	A 5	455	9,000	〃	3/25
荒 井 献	人が神にならないために	四六	221	2,000	〃	3/31
平野克己監修	聖書を伝える極意 — 説教はこうして作られる	四六	197	1,800	キリスト新聞社	3/25
関西学院大学キリスト 教と文化研究所編	現代文化とキリスト教	四六	205	1,800	〃	3/25
東洋英和女学院大学 死生学研究所編	死 生 学 年 報 2016 — 一生と死に寄り添う	A 5	288	2,500	リ ト ン	3/31

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲毛2-2-1 稲毛中央ビル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo@icom.home.ne.jp/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisutokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ndv.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	中壠郡西原町字豊777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2016年6月号

特集 聖書と食

寄稿者 池田裕、渡辺英俊、前野直樹、古沢広祐

中村あずさ、賈晶淳

好評連載 聖書とわたし（上野千鶴子）、聖書

素読（金必順）、レヴィナスの時間論（内田樹）、
新約釈義第三メモテ書（辻学）、消しゴム点描（望月麻生）、南島キリスト教史入門（一色哲）、現代日本の福音（高橋裕子）、詩篇の思想と信仰（月本昭男）、ことばの履歴書（佐藤優）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

「一万円は素晴らしいんですよ」

印刷会社の営業担当者が教えてくれた。

確かに、昼食代六百円だったら約半月分、千円の書籍が十冊買える。私はそれくらいのことしか思いつかない。

一万円には十種類以上の特色が使われているとのこと。普通印刷の色は青、赤、黄、黒の四版を重ね、それぞれの濃度のバランスで全色を網羅する。例えば、緑は青と黄を重ねて表すといった具合。それに対して特色は既成の色、一色に対して一版を用いるので十色だとかなり贅沢な仕事になる。一万円はさらに箔や透かしが施されていて、それらを紙幣のためだけに開発した紙に印刷するというところから破格の経費。デザインも他国と比べて非常に複雑だのと。

一万円は印刷分野において、日本の高度技術の結集であり、世界に誇れる最高傑作なのだそうだ。

今まで一度も、そんなふうにならぬ一万円を見たことがなかった私は、何よりも営業マンの饒舌な語りと、プロフェッショナルな着眼点を尊敬した。

高揚感が漂う中、特色は正確には何色使っているのだろうと思っ
て聞いてみると、「知りません」と慥然とされてしまった。後になっ
て、すべては秘密、愚問だったと反省する。

圧倒される語りにただ頷いていると、最後は「お金を作るうなん
て絶対に考えてはいけませんよ」という決め台詞のような言葉で締
めくくられた。

人は、目に映るものを無意識にシミュレーションし選別している
そうだ。これは自分にとって必要か否か。

私にとってお金は、欲しいものと交換できる便利なもの。一度、
特色の教を数えてみたいと思うが、買い物をする時にしか見ないの
でなかなか難しい。しかも、一万円の素晴らしさを知った今でも、
手に持っているときは忘れてる。私は全然意識が足りないと思っ
た。(吉崎)

本のひろば 2016年7月号 予告

本・批評と紹介・ジョン・シエルビー・スポング著『信じない
人のためのイエス入門』、ジョン・グリーンリーフ・ホイット
ピア著『雪に閉ざされて』、福嶋裕子/大宮 謙ほか編著『3・
11以降の世界と聖書』、竹内 緑著『ルワンダ 闇から光へ』、
T・ピーターズ他編『死者の復活』、小原福治著『律法の彼方に』、
大沼潤子著『雑草庵日記』ほか

長年の牧会経験に
培われた講解



喜田川 信

約束の言葉への信仰

ローマ書講解説教

● 四六判・124頁・本体1,200円

未踏の地のキリスト者たちへ、使徒パウロが伝えようとした「福音」とは何か？ 新約聖書の中で最も神学的と称されるローマ書の真髓を、現代的視座から明晰かつ平易に説き明かす説教集。

ペンテコステに読みたい本

鎌倉雪ノ下教会 教会生活の手引き

加藤常昭

オンデマンド版

● 四六判・430頁・本体3,400円

教会とはどんなところか



素朴な質問から始まり、制度・仕組みや、礼拝の意味、説教、洗礼式、結婚式や葬儀、祈禱会、教会の諸委員会の働きなど多様な質問に答え、解説する。

祈りへの道

新装版

加藤常昭

● 四六判・288頁・本体2,000円

聖書の言葉を説き明かしながら、祈りの原点を指し示す信仰の道しるべ。祈りの入門書として最適。

若者と生きる教会

大嶋重徳

伝道・教会教育・信仰継承

● A5判・114頁・本体1,200円



学生伝道の最前線に立つ著者が、教会を活性化させるための提言を具体的・実践的に語った講演録。ユーモア満載、誰にでも実践できるヒントがここに！

日本の伝道を考える 3

伝道する教会の形成

上田光正

● A5判・292頁・本体1,900円



堅実な伝道・牧会をしてきた著者が贈る渾身の「日本伝道論」の最終巻。本書では、牧師と信徒の役割、教会の一致や教団形成の問題を考える。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549

本のご注文は (e-shop 教文館) へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

信じることをためらっている人へ

キリスト教「超」入門

5月18日



岡野昌雄

(国際基督教大学名誉教授、フェリス女学院大学前学院院长)

キリスト教にまつわる素朴な疑問にやさしく回答。「右の頬を打たれたら左の頬を出さなくちやいけないの?」「奇跡は本当?」「復活ってなに?」「信じたらなにかいいことある?」聖書が描く意外なイエス像からキリスト教用語まで、楽しくやさしいキリスト教「超」入門書。

◆B6判・本体1200円

あなたはヨブと出会ったか

今井敬隆 迷い、躓き、行き詰まりながら読む

5月31日

難解なヨブ記に今井牧師が挑戦。「迷い、躓き、行き詰まり」とほやきながらも誠実に講解説教に取り組み、分らないことは分らないと告白しつつ、ヨブ記の広大な世界に分け入る。そこから見えてきた不思議なメッセージとは?

◆四六判・本体1600円

教会と戦争

3年前に惜しまれつつ逝去した著者の、残された論文・講演録などから、今必読の28編を精選。

川端純四郎 著

戦争責任から奏楽者の務めまで

大反響



戦時下、牧師館の少年だった著者が見た父の姿、特高が監視する礼拝、長じて留学の途次に出会ったアジアの貧しい子どもたち、ドイツで師事したブルトマン、中国人の友、そして帰国後に学び始めたマルクス……。宗教学者、実践家、教育者として教会に仕え続けた篤実な信徒、その多面的で広範な活動の根底にあった思想と信仰。

◆四六判・本体2500円

使徒行伝 下巻

【現代新約注解全書】

好評発売中

荒井 献 学界最高水準の行伝注解が、40年近い歳月をかけてついに全3巻完結。下巻には「補論：最後のパウロ」「概論使徒行伝」を付す。

◆A5判・本体9000円

人が神にならないために 説教集

荒井 献 著者初の説教集。入手し難かったコイノニア社版を復刊。

◆B6判・本体2000円